

(別添2)

## 事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別

: 保育所

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

事業所名（施設名）

: 清野保育園

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。</li> <li>■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。</li> <li>■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。</li> <li>■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。</li> <li>■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。</li> </ul>	<p>○保育課程は、児童憲章、児童に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針の趣旨を捉え、保育に関わる職員が参画して編成している。</p> <p>○保育課程は、保育所の理念、保育方針、保育目標にもとづいて編成し、子どもの発達過程、家庭や保護者の状況、地域の実情、環境等考慮している。</p> <p>○年度はじめに職員会議で保育課程について確認し、年度末に保育実践の評価見直しを行い次年度編成に活かしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<input type="checkbox"/> 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 <input checked="" type="checkbox"/> 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 9 内装等には、木材を利用している。 <input checked="" type="checkbox"/> 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 <input type="checkbox"/> 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。	<p>○気象条件により戸外の影響を受けやすい構造である。降雪・降雨時は廊下が吹き曝しのために暴雪カーテンを引いている。職員は、早朝から、園児の転倒等の事故防止、環境整備のためにモップ掛け等を行っている。</p> <p>○部屋の湿温度、玄関、廊下、トイレ、園庭、遊具等の安全点検を毎週行っている。園庭の固定遊具は、年1回業者による点検を行っている。</p> <p>○遊具等は、感触が楽しめる素材、色彩等に配慮・工夫をしている。</p> <p>○部屋から離れてホッとできる場所として、玄関横のソファが用意され、登園時、昼食後等に利用している。部屋の床にマットを敷いたコーナーの前で絵本を見る、机で絵を描く、床に座りブロックに夢中になる子ども等、落ち着いて過ごせる場所が用意されている。</p> <p>○水洗トイレ工事が行われていないため、職員は、スリッパの消毒、トイレ内のこまめな清掃をしている。</p> <p>○生活にふさわしい場として、居心地よく過ごすことのできる環境となるよう、来年度予定されている耐震工事に合わせた改修工事に期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	■ 13	子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	<p>○登降園時に保護者、担任と詳細な内容を伝え合っている。また、連絡ノートのやり取り等を行い子どもの発達、発達過程、家庭環境等から生じる子どもの個人差の把握に努め、保育に反映している。</p> <p>○子どもが安心して自分の気持ちを表現できるよう、保育者がゆったりとした関わりができるよう配慮している。</p> <p>○子どもから発する言葉を大切に、欲求や子どもの気持ちに添えるよう努め、職員、保護者で共有して援助している。また、園だよりに子どものつぶやき等を掲載して子どもの気持ちを伝える機会も図っている。</p> <p>○保育士は、子どもたちの発達に合わせた言葉づかい、きつい口調にならないよう、音声にも配慮しておだやかな口調で話しかけている。</p>
	■ 14			子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。		
	■ 15			自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。		
	■ 16			子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。		
	■ 17			子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。		
	■ 18			せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。		
		③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	■ 19	一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。	<p>○自分でやろうとする気持ちを大切に、見守り、さり気ない手助けをして、自分ができた達成感を味わえるようにしている。子どもの発達に合わせて、一人ひとりに合わせた基本的な生活習慣の習得ができる支援の工夫をしている。</p> <p>○家庭での睡眠状況等を把握して、午睡をする習慣等は、一人ひとりに合わせて、絵本を読む等して強制することなく午睡ができるよう支援して、子どもの主体性を尊重しながら援助している。</p> <p>○食事習慣等は、絵カード、写真等を使い理解できるよう工夫して働きかけている。</p>
	■ 20			基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。		
	■ 21			基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。		
	■ 22			一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。		
	■ 23			基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	■ 24	子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。	○登園するとすぐに庭に出て遊び、身体を動かし、園庭前の農道をマラソンする、年齢別に散歩の距離に配慮しながら、長距離の散歩にチャレンジしている。  ○楽しい、やってみたい気持ちを大切に、体幹を鍛え、総合的に感覚機能の成長発達を促した取組み（マラソン、散歩、体操、どろんこ遊び、プール遊び、雪遊び、ゲーム等）を集団の中で四季を通して行い、身体の仕組みを理解し、基本的な動作が身につけて来ている。  ○公開保育は、子どもの虫との関わりを發展させて実践した。年長児がリーダーシップを取る、年少児の面倒見る、お互いを思いやる気持ち等が芽生えた。また、友達関係が育まれ、共同する、ルール等が身につく機会となった。  ○少年科学センターへのバス遠足、年長児が路線バス、電車の乗り継ぎをして施設交流をする、年中児のスーパーへの買物散歩、地域の高齢者、未就園児、小学生等との交流事業を通して社会体験や、地域の人たちと接する機会を数多く設けている。
	■ 25			子どもが自発性を発揮できるよう援助している。		
	■ 26			遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。		
	■ 27			戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。		
	■ 28			生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。		
	■ 29			子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。		
	■ 30			社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。		
	■ 31			身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。		
	■ 32			地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。		
	■ 33			様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。		
		⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 34	0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。	○広い保育室にベビーサークルが設置され、調乳室等で発達に応じて、授乳、離乳食、食事へと移行されている。0歳児が興味や関心の持てる玩具等が用意されている。また、這う、歩行の開始時には、個別支援計画にもとづき、安全に配慮した保育を行っている。  ○登降園時には、生活と遊び、健康状態等は、直接、保護者と情報交換を行い、連絡ノートの活用を通して家庭と密に連携を図っている。
	■ 35			0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。		
	■ 36			子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。		
	■ 37			0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。		
	■ 38			0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。		
	■ 39			0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。</li> <li>■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。</li> <li>■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。</li> <li>■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。</li> <li>■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中での仲立ちをしている。</li> <li>■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。</li> <li>■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。</li> </ul>	<p>○登園時の受入の際は、一人ひとりの状態を確認・把握して、落ち着いた雰囲気の中で保育が進められるよう努めている。</p> <p>○探索活動ができるよう手作り玩具、子どもたちが興味を持てる玩具、文房具等揃え、畳コーナー、椅子コーナー等の環境を整えている。</p> <p>○遊びや、食事等生活の中で自我の育ちを受け止め、言語表現出来ない気持ちを受け止め、保育士が言葉にかえて思いをくみ、一人ひとりに合わせた関わりに心掛けている。</p> <p>○遊びの中で子どもの自発的な声を受け止め、遊びへの展開をしながら子どもが安心して活動できるよう保育士は仲立ちをしている。</p> <p>○園庭や遊戯室では、四季を通して異年齢の子どもたちと遊び、散歩で地域の方との交流を日常的に行っている。</p> <p>○連絡ノートの活用、登降園時の際は、一人ひとりの状況を確認し合う等して家庭との連携を密に行っている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 47	3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組みめるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	○3歳児は、落ち着いて活動でき、活動に集中できるよう、必要以上に物を置かない等の配慮をして、興味・関心のある活動に取り組みめるよう環境を整えている。また、集団での活動を大切にして、食事、午睡等の生活や様々な遊びを年長児と合同で行っている。  ○4歳児は、さまざまな活動を通して、年長児への憧れや、自分でもやってみたい気持ちを大切にして環境を整え、集団遊びで友達との関わりを大切にしている。  ○5歳児は、異年齢グループ、ペアでの活動を通してリーダーになり遊びを進める体験、同年齢の友だちと協力して話し合う経験、遊びや活動を通して満足感が持てるようにしている。  ○公開保育の取組み、小学校の音楽会で歌の発表をする、夏祭り、運動会等に地域の方を招く等して協同した取組みを行っている。また、子どもたちの作品を地域から依頼されて展示する機会を設けている。
	■ 48		4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組みめるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。			
	■ 49		5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組みめるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。			
	■ 50		子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。			
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 51	建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。	○特別な配慮を必要とする子どものクラス作り、保育士との関係作りに関して、外部からの専門家による巡回支援等の助言を定期的に受け、個別指導計画に反映して保育を行っている。  ○障害児保育に関する外部研修を受講して必要な知識、情報を得て職員で共有している。  ○子どもの育ちについての悩み、不安の相談を受け止め、専門機関での相談・支援状況を傾聴し、時には話し合いをして保護者と連携を密にし、職員間で共有して保育所での生活に配慮している。  ○特別な配慮を必要とする子どもへの保育は、保育士の援助する姿勢を通して、保護者に理解が得られるよう心掛けて対応している。
	■ 52			障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。		
	■ 53			計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。		
	■ 54			子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。		
	■ 55			保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。		
	■ 56			必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。		
	■ 57			職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。		
		■ 58	保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。			

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 59	1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。	○幼児・未満児の人数を把握し、安全確保をして、ゆったりと過ごせる環境で時間外保育ができるよう取組んでいる。  ○長時間に及ぶ子どもには、おやつ等の提供を行っている。  ○「時間外保育引き継ぎ書」に記録して引き継ぎを行い、担当保育士、保護者に必要事項が伝わるように連携を図っている。
				■ 60	家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。	
		⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	■ 61	子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。	○アプローチ・スタート（接続期）カリキュラムが保育所・小学校間で作成され、小学校との連携、就学を見通した計画に沿って実施されている。  ○小学校と隣接し、交流しやすい環境にある。1年生、2年生、5年生と交流する機会が多く、プール遊び、音楽会、観劇、交流会等通して、入学後の生活について見通しの持てる機会が設けられている。  ○今年度、地域の公開保育を担当保育所として実施し、運動をテーマにして、保育士、小学校教員が合同研究を行った。  ○保育所児童保育要録を作成すると共に、子どもの全体像が伝わる工夫されたカードの作成もし、提出している。
				■ 62	年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。	
				■ 63	保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。	
				■ 64	子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。	
				■ 65	担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	
				■ 66	計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。	
				■ 67	子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。	
				■ 68	保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。	
				■ 69	保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。	
				■ 70	施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。</li> <li>■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。</li> <li>■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。</li> <li>■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。</li> <li>■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。</li> <li>■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。</li> <li>■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。</li> <li>■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。</li> </ul>	<p>○入園のしおり・園児の健康管理、マニュアル等にもとづき一人ひとりの健康状態を把握している。</p> <p>○ケガ等は「ヒヤリハット・けが」に記載して、ケガ等の再発防止に努め、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。また、体調の変化も都度、保護者に連絡をしている。</p> <p>○健康管理計画にもとづき、年2回嘱託医による内科、歯科、尿検査の実施をしている。また、視力測定を年長・中児に保育士が行っている。胸囲、頭囲を年2回測定、毎月、体重測定を行い保護者に報告している。</p> <p>○既往歴や予防接種の状況、子どもの健康に関わる必要な情報等は、毎年、「家庭の調べ」の提出により情報を得ている。</p> <p>○保育所の子どもの健康に対する方針、取組を懇談会、入園のしおり、園だより、クラス便り等で保護者に伝えている。</p> <p>○乳幼児突然死症候群について、職員には、毎年研修により、周知を図っている。また、未満児の保護者には、入園児に資料等を用いて説明を行っている。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</li> <li>■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</li> <li>■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</li> </ul>	<p>○治療が必要な子どもの治療結果は、報告書にて保育所に報告する仕組みになっている。</p> <p>○職員は、検査結果を周知して保育計画等に反映している。また、「市フッ化洗口実施園」となり、年長児が6月から実施して虫歯予防に努めている。</p>



評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</li> <li>■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</li> <li>■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</li> </ul>	<p>○アレルギー対応マニュアルをもとに、子どもの状態に応じた適切な対応を行っている。医師の指示により、除去食、代替食の提供をしている。</p> <p>○アレルギー疾患等に関する研修会に、園長が参加して、必要な情報を職員は学んでいる。</p> <p>○アレルギー疾患等に関する、研修会参加への呼び掛ける文書を保護者に配布している。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</li> <li>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</li> <li>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</li> <li>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</li> <li>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</li> <li>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</li> <li>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</li> <li>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</li> </ul>	<p>○子どもたちが、さまざまな野菜作りをして収穫、クッキング、行事での試食会、給食室での連携に至る過程を食育実践計画に位置付け、食に関する豊かな経験ができる取組を行っている。</p> <p>○食事が始まる前に、保育士の話や簡単な手遊び後に、トイレ、手洗い等を済ませて席に座るようにして、落ち着いて食事ができる環境づくりをしている。また、一対一で関わりながら、丁寧に食材の話をし、食べる興味が湧くように語り掛けている。</p> <p>○食器は、料理に合わせる、陶磁器等の食器素材、形に配慮して使用し、食器の見直しを定期的に行っている。</p> <p>○食育だよりを献立と一緒に、毎月家庭に配布している。また、食事が気になる子どもには、家庭と食事内容の情報交換等をして連携をしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食 べることのできる食事を提供 している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</li> <li>■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</li> <li>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</li> <li>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</li> <li>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</li> <li>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</li> <li>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</li> <li>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</li> </ul>	<p>○子どもの食べる量や好みを把握して、一人ひとりに合わせた盛り付け、お代りができるよう配慮している。</p> <p>○食材は、旬の野菜等、地元農産物ができるだけ使い、季節感のある食事の提供に努めている。</p> <p>○調理員は、毎日子どもたちの部屋を回り、食事の様子を見る、食事に関する話をする等により、食事について子どもや保育士から話を聞いている。</p> <p>○地域の食文化を大切にして、おやき、にらせんべい、よもぎ団子など季節に合わせ、手作りをして提供をしている。</p> <p>○衛生管理マニュアルにもとづき衛生管理に努めている。また、私立給食部会で、食品衛生に関する研修会が実施され、参加した職員が職員会議で報告している。</p>
A	2 子育て 支援	(1) 家庭との 緊密な連 携	① 子どもの生活を充実させるた めに、家庭との連携を行って いる。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</li> <li>■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</li> <li>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。</li> <li>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</li> </ul>	<p>○登降園時に保護者、保育士間の会話、連絡ノートの利用等で日常的な情報交換を行っている。必要に応じて電話連絡等しており、内容は記録している。</p> <p>○毎月発行の園だよりに、クラスごとに保育のねらい、行事計画・報告等の掲載、3ヶ月毎にクラス便りの発行をしてクラスの取組み等報告している。また、日々の保育所での生活の様子を玄関に張り出し、食事のサンプルを展示して保護者に伝えている。</p> <p>○保育参観、個別懇談等の実施をして、保護者と子どもの成長を共有出来る取組みを行っている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</li> <li>■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</li> <li>■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</li> <li>■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</li> <li>■ 112 相談内容を適切に記録している。</li> <li>■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</li> </ul>	<p>○登園時に体調、家での様子を聴き、降園時には、保育園の様子、頑張ったことや今日、出来るようになったこと等を伝えている。</p> <p>○保護者からの相談等は、「相談（要望）への対応マニュアル」が整備され、相談記録をし、相談を受けた保育士等はマニュアルに沿って適切に対応している。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul>	<p>○虐待対応に関するマニュアル等は、職員研修を行い周知されている。また、虐待対応マップがあり、虐待が疑われる子どもの様子を観察するチェックポイント等を学んでいる。</p> <p>○保護者の心理状態、子どもの心身の状態を観察し、虐待等権利侵害の兆候を見逃さないようにしている。また、保護者や子どもの様子に細心の注意を払ながら、職員で共有し、必要に応じて関係機関と連携を図っている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。</li> <li>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	<p>○担任が、月案、週案、指導計画を立案し、実践、反省、評価を行っている。職員会を通して振り返りを行い、保育実践に繋げている。</p> <p>○年度末に保育士は、1年の自己評価を行っている。更に、公開保育等の経験を保育所全体の保育実践の評価につなげ、保育課程に反映されることを期待したい。</p>